

書面協議による審議会の開催結果

1. 審議会名
令和2年度第2回石狩市子ども・子育て会議
2. 書面開催とする理由
新型コロナウイルス感染症対策のため
3. 協議期間
令和3年2月17日から令和3年3月17日まで
4. 会議参加者
吾田会長、坪田副会長、河岸委員、近藤委員、星野委員、和田委員、伊藤委員、
新田委員、金子委員、穴田委員、山中委員
5. 議事項目
(1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について
(2) 放課後児童クラブ「つくしクラブ」の廃止について
(3) 令和3年度子ども・子育て関連施策予算について
6. 審議会委員からの意見・質問及び回答
別紙のとおり

令和3年3月17日 開催結果確定

石狩市子ども・子育て会議

副会長 坪田清美

(1) 特定教育・保育施設の利用定員の変更について

NO.	委員名	委員からの意見・質問	事業所管課	事務局の考え・報告
1	金子	待機児童の実状と、各特定教育・保育施設の利用定員枠の3・5・10年後の見通しはどのようになっていますか。	子ども家庭課	石狩市子どもビジョン（令和2年度～6年度）におきまして、児童人口の減少に伴い、教育や保育の需要も減少していくと予測しており、利用定員枠は令和3年度の利用定員で計画終期まで確保できる見込みとなっています。人口は10年後も減少傾向にあることが予想されますが、利用定員については社会情勢等を踏まえ次期計画のなかで整理していくこととしています。
2	金子	各園で送迎等はあると思いますが、利用家庭のニーズと各園の立地分布の関係で課題はないのでしょうか。	子ども家庭課	お子さんの送迎に関しましては、保護者の責任において行っていただいているところですが、現在、市内認定こども園14園中6園で主に幼稚園部の児童を対象に園児バス運行しています。また、制度上、認可保育施設への入所にあたりましては、保護者の希望を第一にご家庭の就労状況等による優先順位や希望する園の定員を踏まえ利用調整することから、必ずしもニーズに合った園に入所できるものではありません。
3	金子	利用定員の上限規制はあるのでしょうか。また、ある場合の基本的な考え方はどのようになっているのでしょうか。	子ども家庭課	利用定員は、認可定員と一致させることを基本としつつ、実情に応じて認可定員の範囲内で設定することができます。また、認可定員は、児童福祉施設の最低基準等を満たす必要があります。 （最低基準の主な内容） ・職員配置基準：0歳児3人に保育士1人（3：1）、1・2歳児（6：1）、3歳児（20：1）、4歳以上児（30：1） ・設備基準： 0、1歳児 乳児室の面積：1.65㎡以上/人 ほふく室の面積：3.3㎡以上/人 2歳以上児 保育室又は遊戯室の面積：1.98㎡以上/人 屋外遊戯場の面積：3.3㎡以上/人
4	山中	定員を変更する理由は様々だと思うが、保育活動はもちろん、コロナ禍で密を避ける工夫や感染症予防の対策・緊急時の対応・保育士の確保など、親が安心して子どもを預けられ、親子にとって豊かな成長の場となることが大事だと思います。実態はどのようになっていますか。	子ども家庭課	各施設において「保育所における感染症対策ガイドライン」等により、施設内で感染症がまん延しないよう保護者をはじめ関係者の協力のもと感染症対策を行っているところです。また、新型コロナウイルス感染症に関しましては、関係者以外の施設内への立ち入り制限や、各種行事の見直し、参加人数制限による密状態の回避など工夫しながら運営しています。

(2) 放課後児童クラブ「つくしクラブ」の廃止について

NO.	委員名	委員からの意見・質問	事業所管課	事務局の考え・報告
1	山中	実際に利用していた人や地域の人にとっては、なくなることに寂しさを感じると思われるため、「つくしクラブ」の歴史を市広報やホームページで見ることができたらよいのではないのでしょうか。	子ども政策課	つくしクラブの廃止については、市のホームページでお知らせすると同時に石狩市の年表に掲載する予定となっております。

(3) 令和3年度子ども・子育て関連施策予算について

NO.	委員名	委員からの意見・質問	事業所管課	事務局の考え・報告
1	山中	「新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業」 (子育てサポート推進事業) コロナ禍により、親や子の孤立がさらに悪化している状況になっていると思います。ひとり親家庭では、母子よりも父子の方が状況は悪いのではないのでしょうか。地域(小・中学校、町内会、子ども会、児童民生委員など)の力を見直し、直接会えなくても電話やメールを活用し、『忘れられていない』『無関心でない』ことを伝えていくことが大事だと思います。	子ども政策課	ご意見のように、コロナ禍では子育て家庭の孤立化が課題となりました。実家が遠方であったり高齢であるなど、親族に頼ることができない状況下では、地域との繋がりが支えになるという方もいると考えられます。 地域での見守りや助け合いは、基本的には、顔を合わせて繋がることを大切にしてきたところですが、これまで培ってきた地域活動の良い点を生かしつつ、新たな活動を展開できるよう、地域のネットワーク強化を模索していきたいと考えます。
2	山中	「小児科新規開設促進事業」 圧倒的に小児科不足で、子をもつ親は悠長に開設を待っていただけません。札幌など他市で受診しても、健診や予防接種の補助を受けられる仕組みが必要だと思います。	保健推進課	現在、市内で定期予防接種の対応ができる小児の医療機関は一院に限られており、来院者が集中する状況となっています。受診時の混雑の緩和を求める保護者の声も聞かれることから、市外の医療機関でも予防接種が受けられるような体制づくりについて、現在、関係機関と協議を進めており、早期に実現できるように取り組んでまいります。
3	金子	「ふれあいの杜子ども館建設事業」 地域での子どもの居場所をはじめとした機能に加え、町内会との連携も含めて期待します。	子ども政策課	ふれあいの杜子ども館は、幼、小及び中高生の居場所として多くの方に利用してもらえよう地域の方々や連携、協力し、事業等充実させていきたいと考えております。
4	山中	「ふれあいの杜子ども館建設事業」 ふれあいの杜公園は、不審者が出やすい・公園横に交通量の多い道路があるなど、事件や事故につながる要素が多いと感じます。センサー付きライトで人が隠れられそうなところを照らす、横断歩道や手押し信号を設置するなど、施設だけでなく、周りの環境整備も気にかけてほしい。	子ども政策課	ふれあいの杜公園は以前から不審者等の問題があったことから公園内には監視カメラ等が設置されております。ふれあいの杜子ども館においても現在、センサー付ライトの設置等については検討しているところです。ふれあいの杜子ども館は平日20時まで閉館することから子どもたちが安心して利用できるよう対応していきます。 また、横断歩道や信号などについては、市が自由に設置できるものではありませんので、これらについては、関係機関と連携、協議し、子どもたちの安全確保に努めていきたいと考えております。

5	新田	新規・拡充の事業が多く、頼もしく感じました。特にGIGAスクール構想環境運用事業については、さまざまな学びの可能性を広げる事業だと思うため、今後注目していきたい。	学校教育課	仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっており、子ども達がICTを適切・安全に使いこなすことができるよう、情報活用能力を育成していくことが重要となります。
6	山中	「GIGAスクール構想環境運用事業」 子どもたちがインターネット環境に触れるにあたり、個人情報の流出などの危険性があることを念頭に、正しく利用する知識も知らせてほしい。また、家庭や学校で画面を長時間視聴することに不安があります。健康や情緒に影響はないのでしょうか。	学校教育課/ 教育支援センター	ご指摘のとおり、自らを危険にさらしたり他者を害したりしないよう情報モラルを学ぶことはとても重要なことであるため、こちらの教育はGIGAスクール構想とは別に既に行っているところです。 また、ICTの利用による健康被害については、そういったご心配があることも念頭に置きながら、国の指針や基準などの動向を注視し、子どもたちが安全・安心に使える環境を整備していきます。
7	金子	「ひきこもりサポート事業」 ひきこもり当事者等によるSNSや電話等を活用したオンラインでの相談支援は、新型コロナウイルス感染防止対策をしながら支援を進めていくだけでなく、繋がりを途絶えないようにするためにも必要だと思います。	子ども相談センター	当事者への支援の多くは、家族の支援から始まります。家族の孤立化を防ぐためにも、対面でも非対面でも利用しやすいような工夫を重ねたいと考えています。
8	金子	「学校支援地域本部事業」 学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制整備は必要な取組みであると思います。さらに、障がい理解についても含まれるようになればと思います。	社会教育課	学校の様々な事業等に地域や家庭の協力を得るなど、地域が一体となって子育てをする体制づくりに努め、今では定着した取組となっております。今後も全ての子どもたちが健やかに成長していけるよう引き続き取り組みを進めてまいります。